海外レポート	**ベトナム　ホーチミン**

海外ビジネスサポーター　石川　幸

メガバンクで投資銀行業務等の幅広い経験を持つ。現地従業員 200 名。800 社超のお客様に市場調査、ビジネスマッチング、投資ライセンス、会計・税務・監査、労務・法務、M&A など幅広い側面で日系企業を支援。

「メトロ１号線開通」

＜ベトナム初、メトロ１号線の開通＞

日本の支援で整備されたベトナム初の「地下鉄」が 2024 年 12 月 22 日、ホーチミン特別市で開業しました。ハノイ市では、フランスや中国が支援した高架式の２路線が開業済みですが、都市鉄道としては首都ハノイの２路線に次ぎ３路線目で、地下鉄が開通するのは初めてです。

ベトナム都市部では渋滞や大気汚染が深刻化しており、都市鉄道の整備はその解決策の一環です。ホーチミン市では、調査段階から国際協力機構（JICA）が支援し、大手の日本企業が工事やシステム導入などを受注し、定時運行や安全性のほか騒音や振動を軽減する環境対策も売りとなっています。

この都市鉄道「メトロ１号線」は総延長 19.7km で、市中心部の「ベンタイン駅」から郊外の「スオイティエン駅」まで 14 駅を結び、ベンタイン駅から 2.6km の 3 駅分が地下区間です。開業から１ヶ月の無料期間は多くの市民が押し寄せました。料金は 7,000 ドンから 20,000 ドン（約 44 円から 125 円）で、1 日乗り放題 40,000 ドン、3 日間乗り放題 90,000 ドン、1 ヶ月乗り放題 300,000 ドンや学生割引も設定されています。

＜工期の遅れと事業費増大＞

度重なる工期の遅れで、事業費は増大しました。JICA が 2007 年 3 月にベトナム政府と円借款契約を締結した当初の開業見込みは 2015 年１月で、総事業費は約 1,266 億円でしたが、行政手続きの遅れやコロナ禍などで工期が延長され、総事業費は 2023 年 12 月時点で約 2,120 億円に膨らみました。こうした中、日立製作所は 23 年４月、ベトナム国際仲裁センターに仲裁を申し立てており、地元紙によると、工事の遅れで費用がかさんだなどとして、市側に４兆ドン（約 250 億円）を請求しているそうです。

＜今後の計画＞

2 号線（ベンタイン市場からタムルーン地区まで）は 2025 年に着工、2030 年の開通を目指しています。他にも６つの路線が計画されています。

【メトロ１号線の様子】

＜ベトナム時事＞

・ベトナムの高齢化：ベトナムは人口１億人を超え、人口ボーナス期が続いている一方で、60 歳以上の人口は現在約 1420 万人となり高齢化が着実に進んでいる。2030 年には 1,800 万人を超え、2037 年までに 60 歳以上の人口が全体の 20%を占めると言われている。

・世界で最も空気が汚い都市、ハノイ：大気汚染が近年ひどくなっており、２月２日には濃霧と雲底の影響からノイバイ国際空港では約 100 機の離着陸ができなくなった。

・テト（ベトナムの旧正月）：日本のお盆と正月を一緒にしたような時期で、実家に帰省する人が多く民族大移動となります。そのため都市部では日頃の騒音とは別世界のような静寂を楽しむことができます。日本でいう安近短・寝正月のような動きもベトナムでも起きており、テトを都市部で過ごすという動きも一部の若者には見られるようです。